

(3) 坑夫ノ子ヲ教育機關トシテ坑夫ノ精神向上ニ付テ

自島津家坑夫ハ古ク至從ノ關係アリト渡リ坑夫ナキニ因リ又此ト全部が通
勤者ニシテ家庭ノ者ナルニヨリ子ヲ教育機關ニ設備ヲ要セズ子ヲハ村落ノ
尋常高等小學校ニ通ヒ居レリ。坑夫自男女ニ對シテハ宗教家ヲ招クノ必要ヲ
見ザルノ状況ニシテ元來此等地方人士ハ労働者ニ至ルマデ宗教心ニ富ミ彼
岸又ハ金等ニハ參事スルヲ習慣トシ自ラ休ハラ例トス殊ニ名僧ノ説教
ノ時ハ坑夫ハ好シテ寺ニ行クト云ヘリ但ニ井金山ニテハ時々慰安トシテ
僧侶ヲ招キ又ハ浪花節活動等ヲ觀覽セシメ居レリ。

(4) 坑夫ノ救済法ト勤陝

島津金山ニ共濟會アリ役員ハ一月就任ス坑夫ハ一月五元ヲ出シ
卅五銀行ニ定期預金ト為シ居ルルガ一般ニ此九州ノ産坑夫ト異ナリテ
勉強心ト勤陝ニ富ミ貫カレバ貫カレ程忠實ニ勉ムル郵便貯金モスル
毎日晩食ニ飲酒スルカ如キハ之レナシト云フ島津家ノ遺風今以テ存續